

探究的な学習研究推進通信

Fukutomi Inquiry Learning Team

令和5年 7月18日 (火) No.23

研究授業，続々実施！

探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業の最終年度として、本格的に研究授業がスタートしました。6月29日(木)の小学校5・6年生をスタートに、7月3日(月)中学校1・2年生、7月13日(木)小学校1・2年生の研究授業を行いました。研究協議の柱は「**児童・生徒の主体性・協働性を引き出すファシリテートの工夫が見られた場面、その時の児童・生徒の姿**」でした。どの研究授業も、これまでの研究の積み重ねを生かした具体的なファシリテートが実践されていました。そして研究協議の場面では、見取った児童・生徒の姿からファシリテートの成果と課題について考え、よりよいファシリテートについて協議を重ねました。**ファシリテートの場面を見取ることができること自体が、これまで研究を積み重ねてきた成果の一つ**だと思います。11月の教育研究会に向けて、小・中教職員一丸となって協議を重ねて、よりよい研究成果を普及できるよう頑張らしましょう！

①6月29日(木)小学校5・6年生「夢の実現プロジェクト」

東広島市教育委員会 長野由知 指導主事に来校していただき実施しました。本時の目標は「アクアフェスタで行う活動案についてアドバイスを送り合い、よりよい企画になるように改善することができる。」でした。めあての提示や授業の進行など、児童のリーダーが主体的に行っていたのが印象的な授業でした。教室内にパーテーションを準備し、児童の半数が発表できるよう準備したり、アドバイスをふせんで送ったりするなど、環境を整える工夫が見られました。

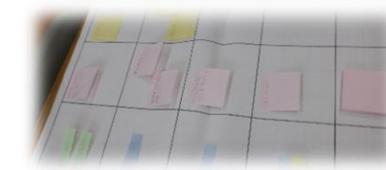


成果
・教師の声掛けで児童の思考が深まる場面が見られた。
課題
・発表したり話し合ったりする際に、一部の児童だけになっている。どの児童も学習を進められる手立てが必要。



②7月3日(月)中学校3年生「福富提言」

成果	課題
・今後の活動の見通しをもち、各グループで話し合い、進める姿が見られた。	・ファシリテートという点において、各グループにワークシートを準備したことは適切であったか。
・目標達成のために意見を出し合い、グループ内での議論を通して、合意形成を図ろうとする姿が見られた。	・ワークシート等を準備しない状況で内容を前に向けて進めていくためには、どのような方法が考えられるか。



西部教育事務所 前田大輔 指導主事，東広島市教育委員会 長野由知 指導主事に来校していただき実施しました。本時の目標は「仮説の検証に向けて、見通しをもち、活動を進めることができる。」でした。野菜・生活・住まいの3グループに分かれて活動を行いました。野菜グループは仮説の検証の見通しについて考え、生活・住まいグループは仮説を明確にするために何をすべきか考えました。それぞれのグループに合った情報整理の方法が準備されていました。



③7月13日(木)小学校1年生「ふくしょうちょうさいたい」 小学校2年生「ふくとみちょうさいたい」

広島大学 朝倉淳 名誉教授に来校していただき実施しました。小学校1年生の本時の目標は「自分たちの学校について今、知っていること、もっと知りたいことを話し合い、こども園の年長さんに教えたいことを考えようとしている。」、小学校2年生の本時の目標は「グループごとに調べる内容や方法を決めることができる。」でした。子ども達は、とても楽しそうに自分の知っていることを一生懸命表現していました。



成果	課題
・それぞれの子どもが「自己発揮」できる授業展開だった。(子どもの日常や学校生活からくる体験から学習展開している。)	・授業の流れを作るための、細かい発問が多かった。「心が動く」体験からアプローチをかけて、めあてから子どもたちがもっているものを全部出させるような声掛けをするとよい。
・板書によって、子どもたちの考えが関連付けられ、整理されている。	

これからの予定

- 7月31日(月) 9月の研究授業の指導案の提出及び研究会当日の授業の内容検討
- 8月7日(月) ブロック研修 **全ブロック** 指導案や研究会当日の内容検討
- 8月21日(月) 小3・4年生 研究授業(9/4) 指導案完成
- 8月24日(木) 校内研修(午後) **全体 朝倉教授来校**
- 9月4日(月) 研究授業(小3・4年生) **全体 長野指導主事来校**
- 9月7日(木) 中1・2年生 研究授業(9/21) 指導案完成
- 9月21日(木) 研究授業(中1・2年生) **全体 長野指導主事来校**
- 9月25日(月) 校内研修・教育研究会に向けて **全体 朝倉教授来校**



先達の言葉

既知の世界から
未知の世界に行かなければ、
人は何も知る事ができない
クロード・ベルナル(フランスの生理学者)

探究的な学習は、子ども達の既成概念を覆すような、心が動く出会いが大切です。「びっくりした!」「なんでこうなるの?」「え〜…わからない。」と思わず声が出てしまうような出会いを単元の中に準備しましょう。心の動きが大きいほど、自主性が高まり、探究に勢いが出ます。そして、表現にも周りを巻き込む力が生まれます。ぜひ出会いを計画し、実践してみましょう!